

奈良テレビ放送

ニュース番組「ゆうドキッ」

小池重二企画 「アジサイ物語」

令和4年(2022)6月14日放送

アジサイの花は日本が原産であるが、万葉集でも、たった2首しか歌われず当時注目の花ではなかった。梅雨時の鬱陶しい時期に咲く、花びらが四枚、青色系、わずかな毒性であることから暗いイメージがあり人気の薄い植物だった。

シーボルト(ドイツの医師・植物学者)が日本の文化・自然を克明に調査・植物採取し西洋に紹介した。当時、ヨーロッパでは園芸ブームで各地に豪華な花壇が作られ珍しい花を探す「プラントハンター」から「東洋のバラ」と呼ばれて大人気になった。その後品種改良され西洋アジサイが逆輸入された。

日本では昭和30年代から鎌倉・明月院がアジサイ寺といわれ、関西では昭和40年頃から矢田寺がアジサイ寺と知られるようになった。

日本で本格的に人気が出たのは、高度経済成長期で、東京オリンピック、大阪万博をはじめ、家族などで行楽地を訪ねるレジャーブームが到来した。寺社に参拝するだけでなく自然や花を訪ねる新たな観光スタイルが誕生した。

吉野の桜、長谷寺の牡丹などの昔からの花の名所に加えて、アジサイ寺、コスモス寺など新たな花の名所を目指す寺などが現れ、今日に至るアジサイブームが到来した。奈良では矢田寺、長谷寺、般若寺、壺坂寺などで賑わった。

ヨーロッパと日本のアジサイ

アジサイは土壌の状態で色が変わる。

日本の土壌は酸性土が多く青色系の花が多く、ヨーロッパではアルカリ性土壌が多くピンク・赤の花が多い。ヨーロッパで「東洋のバラ」と言われる所以でもある。



昭和32年(1957) レジャーブームで賑わう若草山



昭和39年(1964)
オリンピック聖火ランナー
写真：飛鳥小学校



昭和45年(1970)
大阪万博
写真：飛鳥小学校